

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570103152
法人名	医療法人 岡田整形外科
事業所名	グループホーム 楽楽
所在地	宮崎市大字浮田3321番地 (電話) 0985-47-1162
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 9月 1日

【情報提供票より】(21年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有(50,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(イ)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 79 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡田整形外科、徳田内科、福沢歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同敷地内にもう一つのグループホームがあり、利用者は遊びに行ったり来たり行き来がある。また、認知症専用デイサービスが併設されており、ここの利用者がグループホーム利用に移行されることが多く、馴染みの関係がある。母体医療施設での健康管理体制があり、利用者や家族は健康面・医療面において安心である。職員は利用者との日々の関わりの中で、気づきや気になったことを『なぜメモ』として記録し、家族からの要望や利用者のニーズの発見に努め、ケアに活用し、利用者一人ひとりに寄り添いながら支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の取り組みについて、開催日程や参加メンバーなど前向きに検討している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員はサービス評価の意義や目的を理解している。自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では事業所からの報告や相談とともに、参加メンバーから意見や要望を受けている。防災訓練について相談の結果、地域消防団の協力が得られている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3か月に1回ホーム便りを発行している。家族等の来訪時には、個々に利用者の状況や暮らしぶりを伝えている。金銭管理は出納帳に記入し、家族のサインをもらっている。家族会を設けており、家族からの意見や要望などは「なぜメモ」様式で全職員が共有し、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時には近隣の人々と気軽に挨拶を交わしている。事業所の夏祭りなどには地域の人々を招待したり、保育園児の訪問を受け入れている。また、認知症サポーター養成講座の講師として出向いたり、事業所で講習会を開き、地域住民との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさを大切に笑顔で穏やかな生活を過ごせるよう、ゆとりと尊厳をもって支援し、また家族や地域との連携に努めるという内容の理念をつくりあげている。毎年地域密着型サービスとして何が大切かを職員全員で考え、具体的な「部門目標」を掲げて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の利用者への関わりの中で、理念が反映されているかを毎月1回の職員ミーティングにおいて話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時は地域の人々と気軽に挨拶を交わしている。事業所の夏祭りなどの行事には地域の人々を招待したり、保育園児の訪問を受け入れている。また、認知症サポーター養成講座の講師として出向いたり、事業所で講習会を開いて地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はサービス評価の意義や目的を理解しており、自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告や相談とともに参加メンバーから質問、意見、要望等を受けている。しかし、参加メンバーが固定していないこともあり、出された検討課題について継続して話し合うことができなかったり、サービス評価のモニター役としての機能が活かされていない。	○	運営推進会議のメンバー構成や参加について、地域の代表者や市行政職員にも積極的に参加してもらえるよう更なる働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行う研修会に積極的に参加したり、介護相談員の受け入れや地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月に1回ホーム便りを発行している。家族等の来訪時に利用者の状況や暮らしぶりを伝えている。金銭管理は、出納帳に記入し、家族に定期的に報告し、サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けている。また家族からの意見や苦情、相談等は『なぜメモ』様式で全職員が共有し、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、職員の異動や離職を極力抑えるよう努力している。職員が交代する場合は、紹介や説明を行い利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の年間研修計画を立て、なるべく希望する研修が受けられるようにしている。また、外部研修報告は、毎月の会議で発表し、全職員が共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会や意見交換会など地域の同業者との交流を通じて、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族に事業所に見学に来てもらい、他の利用者や場の雰囲気に馴染んでもらい、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から昔の話を聞いたり、梅干しなど季節の漬物作りを教してもらいながら、生活の技や生活文化の大切さを教える場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1回、利用者と職員が一緒にお茶を飲みながら座談会を行って利用者一人ひとりの思いや意向を把握する場を設けている。また、センター方式を取り入れ、家族からの情報や日々の行動や表情から把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で、本人や家族の意向を聴き、全職員で意見交換やモニタリングを行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1か月に1回モニタリングを行い、3か月に1回定期的見直しを行っている。また、利用者の状況に応じて、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望により、病院受診、通院リハビリの付添を柔軟に支援している。また、自宅で暮らす認知症高齢者がショートステイを利用出来る体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での受診を支援している。また、受診結果に関する情報も共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における医療処置については、「看取りの指針」により同意を得ており、関係者全体の方針の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員への接遇教育や個人情報保護教育に力を入れている。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言動は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを大切にして、できるだけ個別性のある支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、デザートフルーツゼリーを作ったり、食材の皮むきや盛り付けなどを職員と一緒にやっている。食事は楽しい雰囲気の中で、利用者と職員と一緒に同じテーブルで同じものを食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によっては毎日でも入浴できるように、また、入浴を拒まれる時は清拭を行うなど、本人の意向に沿った支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	デザートフルーツゼリーや梅干し、季節ごとの漬物作りなど利用者の知恵や経験を發揮してもらえよう支援している。また、気晴らしに遠方へのドライブを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や週2回、本人の食べたい物を買いにスーパーに出向くなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、施錠しない暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーや自動火災報知機などの設備があり、非常用飲料水や米、塩などの備蓄がある。年2回、地域の消防団の協力を得て利用者と共に避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックし、把握している。カロリーや栄養バランスなどについては、併設病院の栄養士に相談出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂など共用生活の場には季節の花が活けられ、室温、明るさ、音、空気の流れ等居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた寝具やタンス、椅子、人形など馴染みのものが置かれ、その人らしく過ごせるよう配慮されている。		